

令和元年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会 議	名称	第3回 重心・医療的ケア部会	参 加 者 数	28 人	会 場	伊那市福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	令和元年 11月 7日 (木) 13:30 ~ 15:00				
主 題 マ	<p>1 第2回部会(伊那養護学校つくし進路福祉懇談会への参加)の報告</p> <p>2 医療機関や福祉サービス事業所への重心児者の受入れ拡大について</p> <p>3 医療的ケア児等実施調査の結果について</p>					
<p>1, 開会</p> <p>2. 部会長挨拶 朝から寒くなってきた。感染症が流行する時期になってきた。 いろいろと意見を出してほしい。宜しくお願いします。</p> <p>3. 議題 (1)第2回部会(伊那養護学校つくし進路福祉懇談会への参加)の報告 伊那養護学校・伊藤教諭より ・7/2に開催。多くの意見を頂いた。今日は振り返り、確認をして各事業所に繋げていけたらと思っている。 【資料参照】 ○医療との連携に関して 生活の場=学校でのリハビリ 『きらりあ』の協力を得て30回/年(週1回程度のペース) これを経て…学校教室への常駐ができればと考えている。 【訪問リハ】 信濃医療福祉センターでのリハビリを半分 ⇒ 訪問リハに変更 事業所(放課後等デイサービスetc…)でのリハビリができれば… 【『きらりあ』・小池療育Co.より】 ・2ヶ所放デイで身体機能の弱い児童を預かり、リハビリの視点での相談を受けるという形で事業所に派遣(こどもプラス・倉島PT)。今後、ニーズがあれば他の事業所への派遣も考えていきたい。 ・財源の確保が課題 ⇒現在派遣を依頼している専門職の方には申し訳ない程度の費用しか支払いができていない。他圏域でも専門職の派遣が行われているので、調査をして業務に見合った費用が支払われるようにしたい。ただ、限られた事業費の中でどう割り振りをしていくのかを考えていかなくてはいけないことも伝えておきたい(『きらりあ』田中所長)。 ・近くで定期的にリハビリを受けられる体制ができれば… ・病院関係のリハの方にも何か協力してもらえないかと考えているが… 【生協病院・林さん】 ・実際に訪問リハを使っている方は何人かいる。事業所の兼ね合いでまだ難しい部分もあるが、在宅生活の支援は業務の一つとしてできるので、少しずつ関わって行けたらと考えている。放デイ事業所がこのところ増えているので、地域の資源がどのくらいあるのか勉強しながら関わっていききたい。 ・『しろくま』は独自で事業をしている。事業的には費用持ち出しとのこと。『きらりあ』の事業の中に組み込めれば、先行して行なってくれた方も一緒に歩めるのでは…。</p> <p>2, 老健の連携 6年かけて力を入れてやってきた経緯がある。着実な広がりを感じている。 『はびろの里』 ・人材確保が課題だったが、本格的再開の目途が立ちつつある。 ・ようやく職員も慣れ、関わりたいという職員も増えてきた。 ・“一日一人”受け入れで専従一名配置。→2名職員を確保できれば。 ・伊那養護学校からは2名申し込み。人材確保等の理由で一年待ってもらっている。 実習及び体験という形から卒業後に利用という形で、年明け頃から動いて行けたらと考えている。 『フラワーハイツ』 ・様子は? →10月末1名受入れ増。今年2月～稼働(伊那養護学校からは実質1名受け入れ) 人材確保…入浴目的で来ている。個浴等の様々な配慮はできない。高齢者と同じにはできないので別枠で対応。 →同じ流れで毎日できないか?(実際の業務にも支障が出る時もある)</p> <p>○県(保健福祉事務所)との動きを含めて、老健の全体会で部会から現状等を話できればと考えている。</p> <p>3, 事業所との連携について ・11/28に『伊那ゆいまーる』にて保護者との懇談会開催。 ・『アンサンブル』…駒ヶ根に事業所を立ち上げる。駒ヶ根市に生活介護事業所は少ない。 ・推進していきたいと考えているので情報がほしい。 ・看護師が不足している。人材確保が深刻化。各事業所での確保が困難になっているので、一案として市町村付で確保(人材バンク的な考え)でできないか? →どこも不足しているのが現状。財源が出るのは市町村? →制度上では常勤でなくてもいい。実際はどうなの? ということの詳細が不明。もう少し実情や数値(人数)等、具体的にする必要があるので。(県保健福祉事務所・鳥羽係長)。学校だけではなく、各事業所で受け入れに当たった調査も必要ではないか。 老健でも看護師不足は深刻。ショートステイ等があると更に大変になってくる。看護職が対応せざるを得ない状況もある。 ・日曜日の生活の場を提供してもらうには何が必要?</p>						

主な意見など

4, 防災に関して

- ・小学生で医療的ケアを要する方が多い。
- ・避難というと“在宅避難”になりがちに。できれば状況把握(リストはあると聞いているが、どのくらいのものなのか?)。マップもより具体的なものがほしい。
- ・南箕輪…地域ごとの訓練には参加していないが、有事の際には対応してもらえるようになっている。全員が被災者になるので、不安は付きまとうのが現状。
- ・福祉事業所が避難場所に指定されている
- ・卒業後は計画相談の課題にしておく必要があるのではないかな?

5, 難病、強度行動障がい等について

- ・難病に関してはあまり活動できていない。
- ・強度行動障がいに関しては3回研修開催(支援者向け)。自立支援協議会の人材育成の方で…。
- ・研修に対するニーズは上がっていると感じている。

6, 来年度に向けて

- ・年間4回しかない部会のうち1回もっている(第2回)。
- ・第1部→養護学校の様子も見られる(授業公開)。第2部→意見交換の貴重な場となっている。
- ・保護者は?→実際の場を見てもらえるのでいいと思う。
- ・個々で支援会議を開催しているし、市町村懇談会もあるので一部の存在意義って?→継続していくことで。

(2) 医療機関や福祉サービス事業所への重心児者の受入れ拡大について(部会長より報告)

- ・受入れ拡大→進展なし。継続。上伊那老健への会議に関して連絡調整中。
- ・上伊那地区の重心受入れをして頂いている施設訪問。
今年度、予定しているところは見学。
10/28、4ヶ所訪問。
①特老『福寿苑』…障がい者の受入れはまだだが希望あり。職員不足が解消すれば…。
- ②『ひなたぼこ』…放デイ、生活介護、ショートステイ(地域限定)で受入れ。訪問時、区分6の重心の方が利用中だった。
- ③『フラワーハイツ』…月曜日の14:00~17:00利用。高齢者と一緒に過ごしている。かわいがられている印象だった。
- ④宮田村『あずま家』…重心4名受入れ(生活介護)。家にいるような印象。

【部会長より】

- ・難病の方の対応を…1名男性。話を聞くが一方的な話になってしまっている。→見直し。
- ・先月、県保健福祉課にて難病対策の方(2名)に取り組みについて聞いている。
様々な難病の方がいる(331疾病)約1,200名上伊那圏域にいる。
受給者証更新手続き、新規受付等の事務手続きが難しい。
『当事者の会』の支援(財政的支援ではなく)。
- ・連携が取れないか…「一緒に」という感じではないが、何らかの情報は持っている。動きがあったら教えてほしいと依頼。

事業所からの事例報告

【『なの花(宅老幼所)』・塩澤さん

- ・対象は0歳~高齢者だが、主に介護保険対象者18名を単発で受け入れている。
- ・タイムケア2名、移送3名(養護学校1名)、生活介護4名(町外1名)、重心その他1名を受け入れている。

- 20歳男性・小学生頃~家庭の事情で移送(高卒まで)、タイムケアも含めながら関わっている。今も生活介護で利用。
- ・1週間のうちサービスがしっかり入っている。
- ・1回/週、9:30母送迎 昼まで一緒に過ごし、PM休むが喋ることもあり~15:30まで(様子によっては時間延長あり)。
- ・Ns.2名、1日1名になる時もあるので付き切りにはなれない。その際は介護職が対応する事もある。
- ・支援チームより各事業所から情報共有あり。連携や信頼関係もできている。

【『フラワーハイツ』】

- ・週2回(月、木曜日)利用。法人内で訪問看護あり。ニーズがあると聞いていた。一昨年の連絡会での話をフィードバック。
- ・プロジェクトチームを立てて2月~受入れ開始。
- ・本業の余力で提供なのが大前提なので拡大は厳しい。入浴だけということなので受け入れている。スタッフ2名確保して対応。
- ・定員96名いる。和気あいあいと話をしてくれる利用者もいる。本人も「何でこんな身体に…」と感じているのでは?

【飯島町社協・『はばたき』】

- ・H29.5~対象。利用者4~5名。H31.4~デイサービスと一緒にやっている。
- ・声をかけてもなかなか外に出られなかったが、徐々に一緒にいられる様になっている印象。
- ・デイ利用者も声を掛けてくれたり傍らについてくれる。
- ・現在は自立訓練…6名、生活介護…14名。
- ・駒ヶ根市~中川村を対象としている。
- ・月~土にタイムケア実施。5名受け入れている。障がい児は飯島町のみ受け入れている。

●重度の方 21歳

- ・10:00~15:30利用。
- ・意思疎通は厳しい。表情のみで判断。嫌な時は歯ぎしりする。
- ・吸引はNs.が対応。昼には吸入もあり対応。
- ・PMレクレーション時にはできるわけではないが一緒に過ごす。
- ・ニーズに合った入浴の提供を心掛けている(一般浴、特浴、シャワー浴)。対象者は特浴。
- ・浴室は高齢者と併用。デイサービス職員が主に対応。

(3) 医療的ケア児実態調査に関して

県福祉事務所・鳥羽さんより説明。 ※資料参照

その他

- ・映画会の紹介
- ・上伊那圏域福祉フォーラムに関して

【信濃医療福祉センター・倉沢さんより】

- ・なかなか要望に応じられずにいる。
- ・入所療育⇒地域へと目が向き始めている。しかし入所のニーズの方が依然として高い。
- ・これからも連携していけたらと思うので宜しくお願いしたい。

まとめ	<ul style="list-style-type: none">・来年度も引き続き、伊那養護学校での部会は開催。・今後も重心、医療ケアを必要とする方を受け入れてくれる事業所を開拓していく。
次回	(記録者)